

国内外の港湾土木工事を手掛ける小島組（本社名古屋港区木場町）の新社長に小島智徳氏が就任した。同社は、港湾の開発や整備のために海底の土砂を掘る「しゅんせつ」に強みがある。世界最大のしゅんせつ船を所有する一方で、自動運転船という工事作業のデジタル化にも率先して取り組んでいる。「海の仕事といえは小島組」を目標に掲げる小島新社長に経営方針などを聞いた。

（聞き手・野田哲示）

小島組社長

（いしま・ともり）

小島 智徳氏

「国内では名古屋港の発展が盛んだ。港は産業基盤とし

て重要な施設なので、港湾土木工事の需要は高い。名古屋港は、総取引貨物量で日本一を誇る港だ。その要因は大型船でも安心して入港できる環境や、貨物を効率的に積み降ろしできる設備などにある」

「名古屋港の発展における小島組の役割とは。つと土砂で土地を造成する『埋め立て揚土』も重要な。倉庫

「貨物運搬の観点で、名古屋港の生産性を上げることだ。港には船が航行する『航路』や、荷物の積み降ろしを行う『岸壁』といった設備がある。貨物運搬の生産性は、土木工事でこれらを整備できているかで決まる。また、しゅんせつで大型工事に関わっている。東南アジアやインドなど」



「工事作業のデジタル化をはじめ、新しいことに挑戦するマインドが当社の強み」と強調する小島社長

しゅんせつで生産性向上へ

デジタル化にも注力

当社の強みである世界最大のしゅんせつ船『五祥』は世界的にも需要が高く、現地の工事業者に提供している。当初は言語の壁で、現地の人にしゅんせつ船の操作を理路整然と説明するのに苦戦した。しかし経験を通じ、現地の人と二人三脚でトラブルを乗り越えて、実績を上げてきた。業界の課題にも率先して取り組んでいる。

「業界の課題はデジタル化による工事作業の効率化と、若手の育成だ。当社では、しゅんせつ船の自動運転に約7

＜プロフィール＞同志社大学法学部卒。14年小島組入社、15年海外事業部長、17年執行役員、17年執行役員を経て現職。43歳。東海市出身。趣味は海外旅行。

「業界内に限らず、一般人からも認知される会社になりたい。そのためには、社会が求める役割に応え続ける必要がある。工事作業のデジタル化、港湾土木工事の質向上などに純粹に取り組む。当社の強みは『新しいことに挑戦するマインド』だ。先頭を走る者にしか感じられない風を乗しみたい」